

人生八十に思うこと

昭和9年10月8日大和郡山市生まれ。成年。血液型B型。

「昭和一桁、最後の生き残りになるぞ！」いつしか思うようになりました。

日本でか「とんでもない」。奈良県でか「無理・無理」。ひょっとしたら橿原市では一番になれるかも。

生まれた昭和9年に何が興きたか面白いので調べてみると帝国人絹会社の株式をめぐった擬獄事件で当時の斎藤実内閣が総辞職したいわゆる帝人事件がありました。

そして、2年後に日本史最大のクーデタ2.26事件、3年後に蘆溝事件から日中戦争、7年後に真珠湾攻撃で始まった太平洋戦争がそれぞれ勃発し11年後にやっと終戦となりました。

その日から全ての価値観が一変しました。

少なからず抱かされていた国家への忠誠心は瓦解、マスコミの豹変、尊敬する先生への不信。これらは私の国家権力への不信感が潜在意識として形成されているのに気付きます。

軍国主義教育の媒体として利用された靖国神社は、政治家の参拝記事を読むたびに忌まわしい少年時代が思い出されます。

教科書は、そのまま使いますが、都合の悪い箇所は墨で黒塗りします。先生の話は急変します。

小柄で初老の英語の女先生は「わが意を得たり」と学舎廊下を教材片手にパタパタ歩いて

いたのを鮮明に覚えています。

昨年4回目の成人式を迎えました。

「5回目の成人式はどうだ」なんとか車椅子に乗ってでも迎かえたいなあ...

現在、きわめて健康。80才の8掛け64才を自負しています。

昭和32年に明治大学を卒業、就職難で止むなく選ん税理士に昭和43年に試験合格。

また話とはびますが、その年は謎に包まれた三億円事件がありました。

以来46年、幸運にも現役で税理士業務に没頭しています。

残念なのは、衝動買いの本が一読、つん読のままで全読できないことです。

人によく聞かれます。「どうしてそんなに元気なんですか」無難に「親のおかげです」

そしてクライアントからは、「いつまでもボケないで元気に仕事をしてください」。

7人の職員からは「私たちの生活がかかっているので体に気を付けて何時までも頑張ってください」

責任を背負ってやり抜き続ける覚悟の日々です。